

川崎市青少年科学館所蔵ベニボタル科・ホタルモドキ科（昆虫綱：甲虫（コウチュウ）目）標本目録

川島逸郎*・高梨沙織*

A list of specimens of the families Lycidae and Omethidae (Insecta: Coleoptera) deposited in the Kawasaki Municipal Science Museum

Itsuro Kawashima* and Saori Takanashi*

はじめに

本報は、2017年度にまでに当館に収蔵されている、甲虫（コウチュウ）目コメツキムシ上科（Elateroidea）に含まれる、ベニボタル科およびホタルモドキ科の標本をまとめたものである。現在の川崎市域においては、多摩区にある生田緑地は、ほぼ唯一のまとまって残された樹林地であるにも関わらず、少なくとも2014年度以降はベニボタル科の昆虫がほとんど見られない状況は、注目すべき点に思われた。これに類似する状況としては、近縁のホタル科 Lampyridae において、通常であればもっとも普通に見られる陸生種のひとつ、オバボタル *Lucidina biplagiata* (Motschulsky, 1866) が、近年記録されなくなっている例が指摘されている（川島他, 2016; 2017）。ベニボタル科の幼虫期は、生態および形態ともに解明がひじょうに遅れているが、国内では、腐朽木から吸汁する（松田, 1997）ほか、粘菌（変形菌）を捕食する例（村山, 2004）が報告されている。このような生態的特性からも、樹林環境の乾燥化、あるいは何らかの悪化は、本科の昆虫の生息に直接的な悪影響を及ぼしやすい可能性がある。このような現況を鑑みると、ベニボタル科もまた、今後の川崎市域の森林環境の状態を量るうえで、環境指標のひとつとなりうる事が想定される。そのため、生田緑地における現況の一端を記録しておくことは、今後の注意喚起としても有効であろう。また、ホタルモドキ科は、国内から3種が知られるのみの、きわめて小さな群である。その幼虫期は世界的にも未知で、生活史や生態ともに判明していない（Lawrence *et al.*, 2000; Ramsdale, 2010）。

このような背景をもつベニボタル科やホタルモドキ科の、川崎市における従来の記録は少なく、雛倉他（2003）、川田他（1999）、倉形（1994）、丸山（1971）があるにすぎない。それらを考え合わせても、今後は、過去に得られた標本の資料的な意義はいっそう高まると考えられるので、質量ともにきわめて貧弱な資料ながら、当館収蔵の資料データを公表しておくこととした。

凡例

同定および学名は松田（2012; 2014; 2015）に従ったが、補足的に Nakane (1969) および佐藤・松田（1985）を参照した。目録のデータ部分は、1) 個体数 + 性別（記号）, 2) 産地, 3) 日付（8桁の数字）, 4) 採集者, 5) 機関略号（KMM-IN-）+ 登録番号の順に記載した。同定ラベルが付されているものは、採集者名の直後の丸括弧内に併記した。採集者が不明な場合は（ ）にその旨を、旧番号が付されている場合にも、登録番号直後の（ ）内に併記しておいた。

目録

ベニボタル科 Family Lycidae

クロハナボタル *Plateros coracinus* (Kiesenwetter, 1874)

[麻生区] 1♂, 早野, 20010719–20, W. Suzuki (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23001642.

[多摩区] 1 ex., 枅形（生田緑地）, 19960711, 市民自然調査団 (det. Y. Hirano, 2000), KMM-IN-23001634; 1 ex., 同前, 19990522, Kazuyuki Kawada (det. Y. Hirano, 2000), KMM-IN-23001645; 1 ex., 同前, 19990528–0611, 雛倉正人 (det. Y. Hirano, 2000), KMM-IN-23001641; 1 ex., 枅形7丁目（生田緑地）, 19990729, Kazuyuki Kazuyuki (=Kazuyuki Kawada?) (det. Y. Hirano, 2000), KMM-IN-23001637; 1♂, 枅形7丁目（生田緑地）, 20160531, 川島逸郎 (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23005941; 1♀, 同前, 20170619, 川島逸郎 (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23005983; 1♀, 同前, 20170704, 川島逸郎 (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23005987; 1♂, 同前, 20170705, 川島逸郎 (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23005988; 1 ex., 東生田, 20040626–0711, 岩田芳美 (det. M. Hinakura, 2017), KMM-IN-23001644.

[宮前区] 1♀, 野川, 20020507, Go Takeuchi (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23001643; 1♂, 野川, 20020512, Go Takeuchi (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23001640; 1♂, 野川, 20020616, Go Takeuchi (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23001646.

本種は、川崎市においては、麻生区柿生（丸山, 1971）、生田（丸山, 1971）、生田緑地（雛倉他, 2003）の記録がある。「ハナボタルでは最も多い普通種である」とされている（平野, 2004）。

現在の生田緑地においては、本科で最も普通種と考えられるが、現状における個体数は多いとはいえない。

カクムネベニボタル *Lyponia quadricollis* (Kiesenwetter, 1874)

[多摩区] 1♀, 枅形7丁目（生田緑地）, 20170519, 川島逸郎 (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23005982.

「各地に見られる普通種である」とされている（平野, 2004）が、現在まで、記録個体は上記の1例のみである。

ミスジヒシベニボタル *Benibotarus spinicoxis* (Kiesenwetter, 1874)

[多摩区] 1 ex., 枅形（生田緑地）, 19970619, 川崎市青少年科学館・市民自然調査団, KMM-IN-23001635; 1♀, 枅形7丁目（生田緑地）, 20170623, 川島逸郎 (det. I. Kawashima, 2017), KMM-IN-23005986.

「この属のものとしてはもっとも多い種である」とされている（平野, 2004）が、生田緑地における個体数は多くない。

*川崎市青少年科学館（かわさき^{そら}宙と緑の科学館）
Kawasaki Municipal Science Museum

テングベニボタル *Platycis nasutus* (Kiesenwetter, 1874)

[多摩区] 1 ex., 東生田, 20040502-0602, 雛倉正人, KMM-IN-23001639; 1 ex., 枅形 (生田緑地), 19970408, N. Sakamoto, KMM-IN-23001636.

「各地に普通である」とされている (平野, 2004) が、川崎市内での採集記録は、現在のところ上記の2例のみである。

スジアカベニボタル *Conderis orientis* Gorham, 1883

[多摩区] 1 ex., 枅形 (生田緑地), 19950624, Kazuyuki Kazuyuki (= Kazuyuki Kawada?) (det. Y. Hirano, 2000), KMM-IN-23001638.

上記の標本は、データの同一性から、川田他 (1999) で記録された個体と考えられる。「山地に多い種で、少なくはない」とされている (平野, 2004) が、生田緑地での記録は、上記の1例にすぎない。

ホタルモドキ科 Family Omethidae

ホソホタルモドキ *Drilonius striatulus* Kiesenwetter, 1874

[多摩区] 1 ex., 枅形6丁目 (枅形山・生田緑地), 20000618, Kazuyuki Kawada (det. K. Kawada, 2000), KMM-IN-23001633.

山地に多い種であるが、川崎市においては多摩区枅形山 (丸山, 1971) の記録がある。同区生田緑地においては上記標本の他、2014年度以降は、2015年6月に中央広場脇の林縁で1個体を目撃しているのみで、むしろ稀な種となっている。なお、平野 (2004) は「本科の中では最も普通種で、各地に見られる」としているが、川崎や三浦半島のような低地では多いものではない。

引用文献

- 雛倉正人・坂本憲一・岩田芳美・昆虫班, 2003. 川崎市生田緑地の萌芽更新地周辺の甲虫群集 - 誘因トラップ法による調査から. 川崎市自然環境調査報告 V, pp. 248-286, 川崎市教育委員会.
- 平野幸彦, 2004. コウチュウ目 Coleoptera. pp. 335-835, In: 神奈川昆虫談話会 (編), 神奈川昆虫誌 II, 500 (315-835) pp., 神奈川昆虫談話会, 小田原.
- 川島逸郎・永井一雄・堀内慈恵・柳下庸子・高梨沙織, 2016. 生田緑地のホタル観察記録 第2報. 付: スジグロボタル1齢幼虫の記

載. 川崎市青少年科学館紀要, (26): 11-16.

- 川島逸郎・永井一雄・高梨沙織, 2017. 生田緑地のホタル観察記録 第3報. 特にスジグロボタルおよびムネクリイロボタルの♀生殖器の形態について (予報). 川崎市青少年科学館紀要, (27): 5-9.
- 川田一之・岩田芳美・高橋小百合・昆虫班, 1999. 生田緑地の甲虫. 川崎市青少年科学館紀要, (10): 21-34.
- 倉形和男, 1993. 川崎市麻生区甲虫類目録. 神奈川虫報, (103): 1-34.
- 松田 潔, 1997. ベニボタル科の幼虫. 昆虫と自然, 32(2): 14-18.
- 松田 潔, 2012. 日本産ベニボタルの同定マニュアル, II. さやばね ニューシリーズ, (5): 1-10.
- 松田 潔, 2014. 日本産ベニボタルの同定マニュアル, VII. さやばね ニューシリーズ, (13): 1-8.
- 松田 潔, 2015. 日本産ベニボタルの同定マニュアル, X. さやばね ニューシリーズ, (19): 1-11.
- 丸山 清, 1971. 川崎市北部の甲虫. はんみょう, (3): 31-69. [未見]
- 村山茂樹, 2004. 粘菌変形体捕食者としての吸汁性土壌昆虫. 昆虫と自然, 39(7): 13-16.
- Nakane, T., 1969. *Fauna Japonica. Lycidae (Insecta: Coleoptera)*. vi. + 224 pp. + 8 pls., Biogeographical Society of Japan/ Academic Press of Japan, Tokyo.
- Ramsdale, A. S. 2010. Omethidae LeConte, 1861. pp. 149-153, In: Leschen, R. AB et al. (eds.), *Handbook of Zoology. Arthropoda, Insecta, Coleoptera, Beetles, Coleoptera Vol. 2, Morphology and Systematic (Elateroidea, Bostrichiformia, Cucujiformia partim)*. 786 pp., Walter de Gruyter GmbH KG, Berlin & New York.
- 佐藤正孝・松田 潔, 1985. ベニボタル科. pp. 92-107 (incl. pls. 15-17), In: 黒澤良彦他 (編), 原色日本甲虫図鑑 III. 500 pp. (incl. 72 pls.), 保育社, 大阪.

インターネット情報

- Lawrence, J. F., A. M. Hastings, M. J. Dallwitz, T. A. Paine and E. J. Zurcher, 2000 onwards (online). Elateriformia (Coleoptera): descriptions, illustrations, identification, and information retrieval for families and subfamilies. Version: 9th October 2005. <http://delta-intkey.com> [閲覧日: 2017年6月9日]